

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 13 日現在

機関番号：12201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25450342

研究課題名(和文) 農村-都市間で農村の社会的価値を共有しソーシャルビジネスを展開する研究

研究課題名(英文) Study on development of social business between rural and urban area

研究代表者

西山 未真(Nishiyama, Mima)

宇都宮大学・農学部・准教授

研究者番号：70323392

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：4年間を通して、農村と都市間での価値の共有をすることによるソーシャルビジネスを介した農村資源の持続的 management について、事例調査・文献研究を実施した。まず、日本の農村フィールドを事例として、農村の価値の発見・発信とその価値の都市側の受容・協働という、農村と都市間でソーシャルビジネスが成立するプロセスを明らかにした。そのことから、農村におけるソーシャルビジネスの定義を行った。また、農村と都市の関係性分析として、海外の先進事例における都市の中の農村の価値の活用、政策としての取り込み方などの調査研究を行い、農村におけるソーシャルビジネス成立の条件として全体のまとめを行った。

研究成果の概要(英文)：We conducted case studies and literature research on sustainable management of rural resources through social business by sharing values between rural areas and cities throughout the four years.

First of all, in the case of rural fields in Japan, we clarified the process by which social business is established between rural and urban areas such as discovery and transmission of rural values and acceptance / collaboration of the value of urban side. Based on that, we defined social business in rural areas. In addition, as a relationship analysis between rural areas and cities, we conducted survey and research on how to utilize rural values in urban areas in advanced cases overseas, how to incorporate them as policies, and summarize the whole as a condition for establishing social business in rural areas went.

研究分野：農業経済学

キーワード：ソーシャルビジネス 農村と都市の価値の共有 農村の社会的価値 地域資源の持続的 management ソーシャルイノベーション 農村と都市の協働 フードシチズン 起業

## 1. 研究開始当初の背景

研究背景は、以下の3点があげられる。1つ目は、持続可能な開発にむけたソーシャルビジネスの役割がクローズアップされてきている点である。ビジネスによる経済的利益のみならず、社会的利益を挙げることが社会的要請として大きくなっているといえる。2つ目は、農村にソーシャルビジネスの手法を取り込む必要性が大きくなっている点である。多くの農村では高齢化・過疎化によってコミュニティが崩壊する過程にあるのが現実である。そのような地域では、もはやコミュニティ内部の力だけでは不十分で、都市など地域外と生産者対消費者という関係を越えた連携体制を築くことが不可欠である。農村の活動をソーシャルビジネスとして発展させることによって、「ビジネス」の視点を取り込んで事業の零細性や継続性の問題の解決が期待できる。3つ目は、農村の価値に対する認識の広がりや都市との連携可能性の高まりである。近年、農業・農村の多面的価値の評価の高まり、および6次産業化の進展によって、農村の価値が広く認識され、農作業や環境整備などに多くの都市住民が参加するようになった。これまで農村にとって都市住民は商品やサービスの購入者に過ぎなかったが、農村の社会的価値の共有が進展している情勢下では、生産者VS消費者の関係を越えて連携して農村の維持再生にあたる、絶好の機会であるという社会背景が捉えられる。

## 2. 研究の目的

ソーシャルビジネスは、社会的価値を商品やサービスとして販売し、購入

者はその価値を理解して購入する。そうして販売者と購入者間で価値が共有される。本研究では、ソーシャルビジネスの、価値を共有する機能に着目し、それを農村と都市間に活用して農村の問題解決と活性化の手段とする。

そのため、農村において共有すべき価値の抽出を行い、都市においては農村へのニーズの把握を行う。そして、農村と都市で共有可能な価値を見出し価値を共有する仕組みをソーシャルビジネスモデルとして提案することを目的とする。

## 3. 研究の方法

研究方法は、主として国内事例調査と海外先進事例調査を基に行った。国内調査では、具体的に、農村における価値と問題、都市における農村へのニーズを聞き取り調査とアンケート調査で明らかにし、それを基礎に共有する価値とソーシャルビジネスとしての成立条件、および都市との連携のあり方を具体的に整理した。また、海外先進事例調査では、農村と都市の連携手法、農村のソーシャルビジネスの地域への影響の観点から先進事例を調査した。

## 4. 研究成果

農村におけるソーシャルビジネスを持続的に発展させるためには、農村と都市間で農村の価値が共有される必要がある。そうした意味から、都市の中での農業・農村への価値の理解、そしてそれにかかわる都市住民や都市の食料政策に農村資源をどのように活用するのかについての先進事例を中心に事例調査を行った。また、海外先進

事例として、カナダ・トロント市における FPC(フードポリシーカウンシル)とその関連機関・組織等の調査も併せて行った。そうした事例調査の分析を基に、農村の価値の発見・発信とその価値の都市側の受容・協働という、農村と都市間でソーシャルビジネスが成立するプロセスを明らかにした。そのことから、農村におけるソーシャルビジネスの定義を行った。また、農村と都市の関係性分析として、海外の新進事例における都市の中の農村の資源の活用、政策としての取り込み方、制度化などの調査研究を行った。それらを踏まえて、農村におけるソーシャルビジネス成立のための条件を整理し、論文、著書等にまとめることで、研究全体の成果のまとめとした。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

### (1) 英文論文

1. Mima Nishiyama、2015、The re-organization of rural community with development of social business: The case study of the Shimanto river watershed in Kochi prefecture、Asian Rural Sociology、Vol.5、No.2、pp.7-14、査読有り
2. Mima Nishiyama、Chulkyoo Kim、2014、Emergence of “food citizens”: citizens’ role in sustaining coexistence in rural and urban areas、Ikegami K.、Aungsumalin

S.、Tsuruta T. eds.、Poverty, alleviation and rural development through alternative socio-economic regimes: fair trade movement and economic of virtue、Kinki University and Kasetsart University、pp. 51-59、査読なし

### (2) 和文論文

3. 西山未真、2013、農村のコミュニティ再編におけるソーシャルビジネスの意義 -高知県四万十川流域を事例として-、農林業問題研究、Vol.49、No.2、pp.427-433、査読有り
4. 佐藤亮子、2014、各地で広がる市活動の運営実態と今後の展開に向けた課題～半島担い手強化プロジェクト「手と口の距離を近づけるまちづくりとマーケットを開こう」の調査結果をふまえて、愛媛大学地域創成研究年報、No.9、pp.25-34、査読なし
5. 西山未真、2015、ソーシャルビジネスによる農村の価値の発信とテーマコミュニティ -高知県四万十町「おかみさん市」の出資者への意向調査をもとに-、農業経営研究、Vol. 53、No.3、pp.87-92、査読有り
6. 石田貴士、西山未真、丸山敦史、2015、女性の就業形態が食生活に与える影響、食と緑の科学、No.69、pp.17-23、査読有り
7. 佐藤亮子、畔元真弥、亀田真美、安田真菜他(9人中9番目)、2015、「住民自治組織」設立による効果に関する研究～松山市堀江地区と伊予市佐礼谷

地域の調査から、愛媛大学地域創成研究年報 NO.10、pp.27-42、査読なし

8. 原 珠里, 西山未真、2015、女性農業経営主の就農経緯と経営の特徴に関する試論農村研究、No.120, pp.1-14、査読有り

9. 安宅玲奈、岡本真輝、仙波朱梨、武智大海、福壽絢人、佐藤亮子 (6人中6番目) 2017、「農」とより添う地域、地域とより添う「農」～学生が運営する愛太陽ファーマーズマーケットの挑戦～、愛媛大学地域創成研究年報No.12、pp.9-27、査読なし

10. 佐藤亮子、2017、“アメリカでもっとも成功した日系スーパーマーケット”と呼ばれる「宇和島屋」創業者・森口富士松とその家族の歴史をたどって、愛媛大学地域創成研究年報No.12、pp.129-134、査読なし

[学会発表](計9件)

1. Ryoko Sato、2013、Role of Farmers' Markets in Creating Opportunity for Individuals and Communities、Interdisciplinary innovative programs hub lecture series、Tulane University、LA、USA、May 13<sup>th</sup>

2. 西山未真、2014、食と農を地域で結ぶ取り組みの社会的役割、日本農業経済学会特別セッション報告、3月30日、神戸大学(兵庫県・神戸市)

3. Mima Nishiyama、2014、Development of Social Business as a tool for reorganizing rural communities: A Watershaed case study of the Shimanto River in Kochi Prefecture、

The 5th Conference of the Asian Rural Sociology Association、2-5 September、National University of Laos、Vientiane City、Lao PDR

4. 西山未真、2014、ソーシャルビジネスによる農村の価値の発信とテーマコミュニティ -高知県四万十町「おかみさん市」の出資者への意向調査をもとに-、日本農業経営学会第1分科会報告、9月20日、東京大学(東京都・文京区)

5. 佐藤亮子、2014、地域におけるファーマーズマーケットの役割、JICA研修(フィリピン/地域における中小企業振興コース)、10月12日(高知県黒潮町)

6. 佐藤亮子、2015、合併後の中山間集落維持における女性企業の可能性～宇和島市御槇地区での実践より、日本農村生活学会、10月10日、千葉大学(千葉県・松戸市)

7. Mima Nishiyama、2016、Development and Current Stage of the Alternative Agri-food Movement in Japan、The 14<sup>th</sup> International Rural Sociological Association、10-14 August、Ryerson University、Toronto、Canada

8. Ryoko Sato、2016、The Possibility of an Agricultural Social Enterprise、International Rural Sociology Association、Ryerson University、Toronto、Canada、August 13<sup>rd</sup>

9. 佐藤亮子、2016、アメリカのローカルフード事情～広がる「農場から食卓へ」の動き～、北アルプス山麓プラン

ド認定委員会、11月13日、長野県白馬村八方文化会館（長野県・白馬村）

[図書](計9件)

1. 西山未真、2013、「人・農地プラン」の裏側にみえる新しい農村社会像、谷口信和編集代表、安藤光義、西山未真編集担当、『動き出した「人・農地プラン」-政策と地域からみた実態と課題-』、日本農業年報 59、農林統計協会、pp.57-72
2. 佐藤亮子、2013、「農」からのまちづくり～直売所が持つ底力[四国地方・公的価値の高い直売所]、林まゆみ編、『地域を元気にする 実践！コミュニティデザイン』、pp.76-97、彰国社、全264ページ
3. 西山未真、2014、食と農のローカル化から見いだせる農村政策の役割 -グローバル化による農村の動揺と新しい動きを素材として-、谷口信和編集代表、菅沼圭輔、平澤明彦編集担当、『世界の農政と日本』、日本農業年報 60、農林統計協会、pp.327-341
4. 西山未真、2014、オルタナティブ農業とローカルフードシステムの現段階、斎藤修、佐藤和憲編、『フードチェーンと地域再生』、農林統計出版、pp.225-238
5. 佐藤亮子、2014、被災地における定期市（ファーマーズマーケット）の役割～気仙沼朝市およびニューオーリンズの経験より、佐藤亮子、湯浅良雄・大西正志・崔英靖編著、『地域創成学』、pp.154-183、晃洋書房、全248ページ

6. 西山未真、2015、『農村と都市を結ぶソーシャルビジネスによる農山村再生』、筑波書房、pp.1-56

7. 西山未真、2016、ローカルフードシステムの展開と地域再生 -都市問題の農業による解決-、斎藤修、佐藤和憲編、『フードシステム革新のニューウェーブ』、日本経済評論社、pp.257-272

8. 大西正志、竹内康博、佐藤亮子編著、2016、『地域と連携する大学教育の挑戦～愛媛大学総合政策学科地域・観光まちづくりコースの軌跡』、ペリかん社、全368ページ

9. 西山未真、2017、ローカルフード運動（ムーブメント）の深まりによるコミュニティ再生 -消費者からフードシチズンへ-、大森彌・小田切徳美・藤山浩編著、シリーズ田園回帰8 『世界の田園回帰 11カ国の動向と日本の展望』、農山漁村文化協会、pp.198-207

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

西山未真 ( Mima NISHIYAMA )

宇都宮大学・農学部・准教授

研究者番号：70323392

### (2) 研究分担者

佐藤亮子 ( Ryoko SATO )

愛媛大学・社会連携推進機構・准教

授

研究者番号： 5 0 5 5 4 3 4 1

(3) 研究協力者

アター・ステイネロウスキー (Artur Steinerowski) スコットランド農業大学・農村政策センター・研究員